

平成23年度

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画

教科名[国語]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	・定期テストにおける漢字の正答率が低く漢字トレーニングが定着していない生徒が多いと考えられる。	・小テスト後の答え合わせ時の個別指導を行うとともに漢字トレーニングを夏の宿題とする。	・特に正答率の低かった生徒を対象に補充教室等にて個別に指導する。
2年	「言語事項」でつまづきを覚えてしまった生徒と、読解問題の勉強法が分からない生徒がいるため、基礎基本と読みの力を同時に伸ばしていく必要がある。	・小テスト後の答え合わせ時の個別指導を行うと共に、漢字トレーニングを夏の宿題とする。 ・ミニ読書の要点を短文にまとめる。	・特に正答率の低かった生徒を対象に補充教室等にて個別に指導を行う。 ・ミニ読書要点をタイトルに関連させながら一文にする練習をし、その範囲から夏休み明けテストを出題する。
3年	・「書く能力」の達成率が低く、文章作成における学習支援が十分ではない。	・文章作成段階における個別支援を密に行う。	・文章未完成者に対する放課後の個別指導を行い、未提出者をなくす。

教科名[社会]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	社会に関する興味・関心や資料活用能力、基本的な知識は良好だが、社会的思考・判断の能力が十分ではないように思われる。	資料活用や発表とともに板書の工夫や問題練習などを通して基礎的内容の理解を深める指導を進める。	意見発表の場面を設定し、話し合いの時間を持たせるなど他の人から学ぶ機会を設ける。
2年	宿題への取り組みや、提出物への意欲は感じられ、授業中も個人差はあるもののよく作業に取り組んでいる。話し合いや発表の場面が少ないこともあり、自ら考え表現することや資料活用技能にはまだ課題が残る。	導入からの学習意欲喚起を行い、積極的に学習に取り組む態度をつくる。地理的な事象の背景や原因などを考え、深める活動を取り入れ、自分の言葉で表現する力を伸ばす。	課題に一人で取り組むことが難しい生徒や学習目標を十分に達成できない生徒に対しては、放課後の時間を使うなどして取り組ませ、アドバイスをする。
3年	社会に関する興味・関心が高く、資料活用能力も伸びてきてきている。基本的な知識や社会的思考・判断の能力が十分ではないように思われる。	基本的な事項の確認を増やすとともにその背景や原因などを考えさせる場面を増やし、社会的思考・判断の力を伸ばす。	休み時間や放課後なども使って基本的な内容の定着を図りながら、発展学習につなげていく。

教科名[数学]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	数量：知識・技能は定着しつつあるが、技能や活用する力が十分にしていないので、改善する。 図形：知識・理解や技能は定着しつつあるが、それらを活用して考えることができるように指導改善する。	数量：反復練習や学び直しの機会を設けて技能を定着させる。また活用する問題ではすぐに解説をするのではなく、ヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させていく。 図形：図形の性質から作図法を見出したり、立体図形のフレームワークなどを活用して数学的な活動を多く取り入れ、数学を活用する楽しさを実感できるようにする。	共通：学力向上支援講師と連携した授業内個別指導と補充教室により基礎学力の定着を図る。また、問題演習を多めに行い、基礎・基本の定着を図る。
2年	課題などは提出するようになり、学習に少しずつ意欲的に取り組むようになってきた。しかし、知識・理解の項目と比較して、技能や活用する項目が定着していないので、指導改善する。	・授業冒頭に計算問題の演習を行い、計算技能を定着させる。 ・授業内では、重要な知識や解き方については特に意識して指導する。 ・すぐに解説するのではなく、ヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。	・学力向上支援講師と連携した授業内個別指導と補充教室により基礎学力の定着を図る。 ・問題演習を多めに行い基礎・基本の定着を図る。 ・プリント演習を行い、基本問題の定着と発展的な内容を学ぶ。
3年	学習に前向きに取り組む姿勢ができており、計算技能は定着してきている。一方で「数学的な見方・考え方」が他の観点に比べて不十分なところがあるのでこの点について指導改善する。	・授業のポイントを明確にして、生徒の課題意識を高める。 ・グラフ電卓を利用して、数学を活用して考える機会を設けその有効性を実感を伴って理解できるようにする。 ・自らの考え方を説明できるような指導場面を設定する。	・授業内確認テストに基礎と発展の両方を取り入れる。 ・学力向上支援講師と連携して個別指導と放課後や補充学習を実施する。 ・3年間の復習プリントで各自の学習課題を確認できるようにする。

教科名[理科]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	4観点の中で「科学的な思考・表現」がやや不十分である。「知識・理解等」の学習から更に、思考力や表現力を高めていくための指導方法の工夫が必要である	授業の中で、対話をしながら科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、考え方を発表させ、時間をかけて追究する学習形態にする。課題をレポート提出させる。形成的評価をSP表等により分析し、次の授業に生かす	ミニテストやその補充シートを用い基礎基本を繰り返す。繰り返教科書や資料集の発展課題を取り上げ、時には演示実験等により関心、意欲を高める
2年	知識・理解については、比較的、定着できたと思うが、それをもとに、科学的に思考する能力、表現力については、まだ高まりきれていないので、自ら考え、表現する能力の向上が図れる指導法の工夫が必要である。	知識・理解の定着に加えて、それが身近な事物・現象とどのような関わりがあるのか考えさせる実験・観察を工夫し、結果を十分に考察させる中で科学的思考の能力表現力をさらに向上させる。	・自ら課題を設定し、主体的に取り組むことのできる「課題解決的な学習」の展開を取り入れ、学ぶ意欲と課題を解決する能力の育成を図る。『学ぶことの楽しさ』や『わかる喜び』を教師と生徒が共有しあえる関係づくりと「わかる授業」の指導法の研究を進めていく。
3年	科学に対する「興味関心」は3年間通してかなり高めていくことができた。今後事象を分析する力や思考力を高める取り組みの工夫と指導法の研究が課題である。	知識・理解の定着に加えて、それが身近な事物・現象とどのような関わりがあるのか考えさせる実験・観察を工夫し、結果を十分に考察させる中で科学的思考の能力をさらに向上させる。	・定期テストや観点別的小テストの結果を基に、基礎的な課題の充実と、応用、発展的な内容の峻別を行い、最新の科学分野の情報(例：はやぶさの帰還、原子力事故等のエネルギー問題等)について提示する。 ・入試模擬形式の問題集を用い、実践力の養成と強化を図る。 ・教科書コラム、発展的な内容の観察・実験を適宜導入する。

教科名[英語]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	毎時、フラッシュカードを用いて新出語句の復習を行い、語彙力アップに努めてきた。また、小テストも頻繁に行い定着を図ってきた。課題としては数字が示すようにインプットとアウトプットが比例していない点あげられる。	既習の重要表現を用いたインタビュー活動やミニ会話、英文暗唱練習等をより多く授業内で展開していく。また、文法事項に囚われすぎたり、ミスを極端に恐れるような姿勢、授業内の雰囲気とならないよう改善していく。	夏季補充教室を実施し、アウトプットの基礎となる、単語や基本文の定着を図る。発展的な活動としては、スキット発表テスト等を実施する際、より生徒自身の思いに即したオリジナルの原稿ができるよう辞書等を活用させながら指導していく。
2年	小テストを毎回行い、語彙の定着を図っているが、英文が既習の文としてみなかなか定着できない生徒が多い。自信をもって自己表現ができるような授業中の雰囲気作りや、繰り返し学習が必要である。	基本文を定着させるために、ペアでの英文練習を強化する。また、復習中心とした書く作業も繰り返し行う。インタビュー活動や、チャットなどコミュニケーションにより自然と会話できる雰囲気作りを目標とする。	小テストで一定の点数が取れない生徒に関しては放課後等の時間を活用して、補充学習を実施する。また、考査の後にはやり直しノートを活用し自己の課題を見つけ次のテストに向けて取り組ませる。発展的な学習としては自己表現のための英文を書かせ添削する。
3年	文法や語彙などの基本的な知識は定着してきているが、それを活用し表現することを苦手とする生徒が多い。表現力を身に付ける授業展開が必要となってくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストなどで語彙を定着させる。 ・プリントなどの繰り返し学習で基本的な文法の定着を図る。 ・基本的な文法を用いた自己表現活動を、書くこと・話すことを通して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元プリント等で基本問題・発展問題に取り組ませる。 ・定期テスト前に数名の生徒を指名し、補充学習を行う。 ・テスト後のやり直しテストを通して、自らの課題を見つけさせ、つまづきを解決するため個々に質問を受ける。

教科名[音楽]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	「関心・意欲・態度」は、定着しつつあるが、「音楽表現の創意工夫」を高める指導法の工夫が必要である。	音と音との関わり合い、形式や速度、強弱等の働きを知覚し、音楽の持つ曲想や美しさを感じ取る能力身に付けさせ、楽曲への理解を深めながら、それらを生かした表現を工夫する能力を高める。	模範演奏を聴き、それを参考に演奏しながら、楽曲にふさわしい強弱や曲想をつかむために、グループを作り表現方法を話し合っ、効果的な表現を試み、工夫させる。
2年	「表現の技能」は、定着しつつあるが、「鑑賞の能力」を高める指導法の工夫が必要である。	「鑑賞の能力」を高めるために、音楽の諸要素の働きや仕組みを理解させ、それらが生み出す曲想から自分の中に新しいイメージをもつ能力を高める。	音楽の諸要素や仕組みについては、授業内確認テスト等で確認し、さらに楽曲に対する解釈や味わいを高めるために多様な音楽、音素材を扱う。
3年	「表現の能力」は定着しつつあるが、「音楽表現の創意工夫」を高める指導法の工夫が必要である。	音楽の諸要素の働きと楽曲または歌詞の内容により生まれる曲想や特徴を感じ取り、自己のイメージを広げて表現を工夫する能力を高める。	模範演奏を聴き、それを参考に演奏しながら、楽曲にふさわしい強弱や変化をつかんだり、グループを作り表現方法を話し合っ、効果的な表現を試み、工夫させる。

教科名[美術]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲、関心を高め継続的に実習することの出来る課題の設定、または実施できる指導方法を考える。 ・技術に対する理解を深めさせ、技術の向上が発想の展開を生むこともあることを理解させ、アイデアと技術は常に相互関係にあることを知らせる。このための題材を取りあげることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的な課題（発想やアイデア）を主とするものと長期的な課題（より技術的な内容を重視するもの）をバランス良く組み込むこと ・発想の仕方、展開の方法など具体的な例を出して参考とさせる。 ・発想面、技術面とも段階的な発展、継続的な実施を行い、発達を促す。 ・アイデア、発想から計画的な作業、展開を行えるようにし各段階でまとめを行うようにする。 ・課題に取り組む際に、多くの参考作品、終了時の作品の相互鑑賞などを充実させ、感想や意見を考えまとめさせる。 ・言語活動を充実させるように心がけ、発表と発言機会を増やし、言葉によって内容の自己確認を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない授業時数の中で技術の向上を図り、発想を促し、展開、発展させるためには、各課題の制作過程での区切りを明確に示し、時間配分などしっかり意識させる。分野の違う課題を取りあげることに努める。（意欲・関心の低下を防ぐ） ・時間的な配分、設定を十分考慮する。 ・余裕をもった計画を立てることを心がける。 ・各段階での補充授業行い進度の調節を行う。 ・短期的な課題（発想やアイデア）を主とするものと、長期的な課題（より技術的な内容を重視するもの）をバランス良く組み込むことを心がける。 ・発想の仕方、展開の方法など具体的な例を出して参考とさせる。 ・発想面、技術面とも段階的な発展、継続的な実施を行い、発達を促す。 ・しっかりしたプランをたてさせ、アイデア、発想から計画的な作業、展開を行えるようにし各段階で、まとめを行うようにする。 ・鑑賞活動をしっかり行なう。（制作当初の参考作品、終了時の相互鑑賞など） ・言語活動を充実させるように心がけ、発表と発言の機会を増やし、言葉によって内容の自己確認を行わせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・発想・アイデアを出せるための工夫が大切である。 ・鑑賞の時間を充実させ、自分の意見の発表の場を多くとる。 ・アイデアや作品に対しての道筋や考えを自分の言葉で表現させることを行う。 		
3年			

教科名[保健体育]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項の習得、育成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心が持てるようにできることから、難しいことへの段階的指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを組み、個人技能の充実を計る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に取り組む態度の育成と授業規律の確立。 ・知識、理解力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・メリハリのある授業をすすめる。 ・ノート、プリントなどを通じて、理解力や知識を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に対して課題を与えながら、主体的に学習できるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手だったり、嫌いな生徒に対する細やかな指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技指導において、細かくアドバイスしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が課題を持って、考えながら取り組み、実践できるようにする。

教科名[技術・家庭科]

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・意欲の高さとは逆に技能面で厳しい生徒が何名かいた。 ・知識理解についてはまだ定期考査を行っていないのではっきりとしたことは言えないが、用語などの暗記は苦手な生徒が多そうである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。 ・知識・理解の達成率を高めるために、1回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について個別に確認をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒にやるようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。 ・作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に向けてあまり関心を持つことができない生徒がいた。 ・技能的には個人差が大きく、早く正確に作業ができる生徒とその逆の生徒がいた。 ・知識理解については昨年度データになるが、ある程度理解できていると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を参考にしながら教材を選び、飽きることはないように作業ごとの目標を決めて作品作りを進めていく。 ・教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。 ・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒にやるようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に関しては関心意欲の高い生徒が多く、作業もしっかりと行うことができていた。 ・教室での講義では、集中力を欠いてしまう生徒が何名かいた。 ・知識理解に関してはできていた生徒とまったくできていない生徒との差が大きかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の達成率を高めるために、1回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について個別に確認をしていく。 ・教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒にやるようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。 ・作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。